

津山自分ごと化会議からの提案（案）

以下の4つの提案は、私たち津山自分ごと化会議参加者がこれまで議論してきたことや「改善提案シート」の内容を中心にまとめたものです。

提案

1. 子どもたちにとっての必要性や財政的な観点など様々な角度から市営プールと学校プール双方のあり方を見直す。

提案

2. プール全体の見直しをするにあたっては、利用者の内訳や利用状況など、現状把握を重視する。

提案

3. グラスハウスについて、今のような運営は来年度いっぱいとし、その間に今後の活用について検討し、結論を出す。

提案

4. プールの見直しと併せて子どもたちが安心して遊べる環境の整備を検討する。

提案

- 子どもたちにとっての必要性や財政的な観点など様々な角度から市営プールと学校プール双方のあり方を見直す。

「誰のため、何のためのプールが必要か」を考えると、子どもたちのためであり、(レジャーよりも)水泳技術が向上し命を守るためにプールが必要という意見がこの会議で多く出された。そのことを前提として、例えば学校プールを減らして市営プールで授業を行うなどあらゆるパターンで考える。その際、中心的に使っている子どもたちの声をしっかりと聞いていく。

「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち市民

- 健康を意識して市営プールを使用する回数を増やす。
- 学校プール開放時の運営体制に協力する。
- 子どもの泳力を向上させるため、スイミングスクールへ通う。

地域

- 学校プールを統合した場合は、各地域で送迎のためのバス停管理に協力する。
- 水泳の指導者を探す。
- ボランティアで、出来る限りプールの修繕を行う。

行政

- 全ての学校でプールを管理すると経費が高くなるので、統合や廃止を検討する。
- 学校プールも市営プールも改修が必要になるので思い切って廃止や競技用市民プールの建設も含めて検討する。
- 「ごんごバス」の経路を変更し、市営プールや学校プールを利用しやすい環境を作る。
- 学校プールを統合や廃止した場合、子どもたちの送迎について十分配慮する。
- 市内に民間プールがあることも様々な方向から広報する。

《個別の意見》

■私たち市民

- 興味の合う友達と一緒に利用して周囲へ発信する。
- 学校プールは現行体制を維持できるよう働きかける。
- 親や祖父母が子ども、孫に指導する。
- 夏休み期間中の学校プールの監視当番に参加する。
- 佐倉市の例についてさらに調べてみる。

■地域

- 健康づくりのサークルを立ち上げてみんなで市営プールを利用する。

■行政

- 小・中学校のプールを可能な限り廃止し、プールの授業は残したい学校のみ(PTA 会議等で決める)市営プールで専門のインストラクターに依頼して民営化で行うことを検討する。
- 学校プールは基本的に 1 校 1 プールの維持を検討する。
- 学校プールは中学校区ごとに屋内プールを検討する。
- 勝北・加茂の 2 施設は廃止を検討する。ただし、勝北・加茂地域の方には久米・グラスハウス行きのバスを出す(7～8月)。
- 久米は競技用として利用を増やし、温水プールなので冬季利用する。
- 勝北は夏のみ短期利用しかしていないので廃止し、他の利用方法を考える、加茂は修繕しながら維持し、夏のみ競技用として利用する。
- 子どもが使用しない時間帯に学校プールを一般に開放することを検討する(その際、利用料の徴収なども検討する)。
- 学校プールにかかるコストを別な形で、未来を支える子どものためのお金にすることを検討する。
- 市営プールを高齢者の健康増進に利用しやすいよう改善する。
- なるべく値段を下げるなど行きやすい利用料を検討する。

提案

2. プール全体の見直しをするにあたっては、利用者の内訳や利用状況など、現状把握を重視する。

見直しをするには現状の把握が重要だが、まだ不完全という意見がこの会議で出された。市民と市外から来る人の比率や、例えばレインボープールの中にある施設(プールやジムなど)ごとの利用状況など実態の調査をまず行う必要がある。

「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち市民

- ① まずは興味を持ち、積極的に情報収集する。
- ② 市の財政について、今回の自分ごと化会議で聞いた話を周りの人に伝える。
- ③ 学校プール開放時に実際に行ってみて、現状を把握する。
- ④ 子どもが市営プールや学校プールについてどう感じているのか聞く。

地域

- ① 地域で学校プールについてアンケートを実施する。

行政

- ① 利用者の実人数や市民と市外から来る人の比率などの状況を調べる。
- ② 維持管理コストの低減に努める。
- ③ 学校で子どもたちにアンケートを取る。
- ④ 小中学校の教員のプール指導の負担等の課題を把握する。

《個別の意見》

■行政

- 認知度の向上のため、広報紙の掲載を大きくしたり SNS など様々な媒体を利用して PR する(どのような設備があるのかなど)。

提案

3. グラスハウスについて、今のような運営は来年度いっぱいとし、その間に今後の活用方法について検討し、結論を出す。

現在、グラスハウスにかかっている税金(年間約 1.1 億円)はかかり過ぎているため、今のままの運営は困難だと思われる。令和2年度末の指定管理期間終了に合わせて、廃止もしくは別用途への転用などを考える必要がある。令和2年度中に、今後の活用方法について結論を出す。

「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち市民	<ul style="list-style-type: none"> ① 自分なりにグラスハウスの存廃について再度考えてみる。 ② 利用してみて、グラスハウスの良さや魅力を SNS で PR したりインスタ映えを狙ってみる。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域ボランティアでグラスハウス周辺の草刈りや掃除をする。 ② 廃止も含めて町内会等で意見を聞いてみる。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ① 市の運営は困難なので、民間に経営を任せる(受けてくれる事業者を探す)。 ② グラスハウスの経費が削減できなければ廃止する。 ③ プールに変わるレジャー(例：サッカー場)を検討する。 ④ ガラス張りの特徴を活かして、温室での農業や研究所としての活用を検討する。 ⑤ 改修して水(プール)を使う場所を減らし、子どもたちが体を使って遊べる場所を増やしたり、体操の教室を開いたりするなどの工夫をする。 ⑥ SNS 発信やホームページの充実、広報紙など PR 方法の多様化を図る。 ⑦ これから先、グラスハウスを廃止や民間運営にした場合、グラスハウスの指定管理料を他のプールの運営に使う。

《個別の意見》

■私たち市民

- 利用してみることにしか方策はない。
- 近所の人を誘ってみる。
- 廃止等で使えなくなることを見越して、別のスイミングスクールやフィットネスを利用する。

■地域

- グラスハウスの利用者を増やせるように地域からも市の魅力として PR する。

■行政

- レジャー施設としては廃止し、新たに健康福祉の為にプールを考える。

- グラスハウスの知名度を上げるためにネーミングライツの導入を検討する。
- 様々なイベントや自主事業を実施し、収入を増やす努力をする。
- 基本の利用料金を上げる。一方で、夏休み割引や子ども連れ割引といった訪れやすい料金も設定する。
- グラスハウスへの交通の利便性を上げて利用しやすい環境をつくる。
- 若年層や市外からの利用促進のために利用料を下げたり、JRとの提携(キャンペーン)を検討する。

提案

4. プールの見直しと併せて子どもたちが安心して遊べる環境の整備を検討する。

子どもたちの遊び場が少ないことが当事者に近い若い世代から指摘された。提案 1. で様々な角度からプールの見直しをする際、プールのことに留まらず子どもたちは市内の遊ぶ場所に関してどのように考えているのかをしっかりと聞いたうえで、例えば廃止するプールの跡地に遊び場を設置するなど併せて検討していく。

「提案4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち市民

- ① 子どものためのボランティアに参加する。
- ② 遊び場を確認してみる。

地域

- ① 地域が学校と連携して、子どもの遊べる場を提供する(例：サイエンスフェア)。
- ② 遊び場のマップを作成して、見える化する。
- ③ 遊び場の草刈りや掃除をして環境を整える。
- ④ 地域全体で子育て世代をバックアップする。

行政

- ① 遊び場のマップを作るなど、遊び場の情報をこれまで以上に提供する。
- ② 公園の改修工事をする。
- ③ グラスハウスを子どものための場所に変えることを検討する。
- ④ 鳥取市子どもの国の様な施設の設置を検討する。